

NISAの認知度・利用度上昇に期待! 商品が選び
にくく種類が多く選択に迷う人はNISAの最新動向
を参考にしてほしい。

商品企画部 松尾 健治
窪田 真美

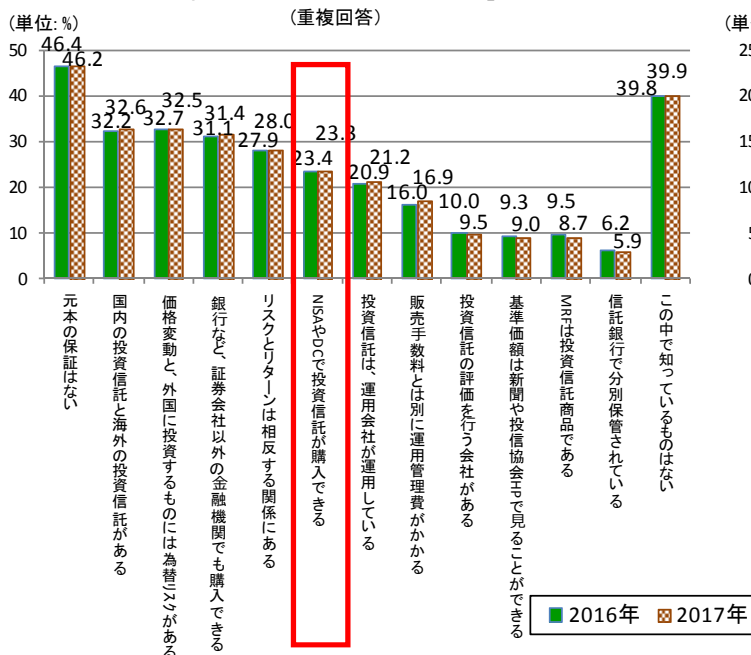
※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

**NISA や iDeco で投信が購入できる事を知っている人は 23.3%で、
税制優遇措置が拡充してきたら投信購入検討のきっかけとする人は 16.3%**

2018年3月7日(水)に投資信託協会が「投資信託に関するアンケート調査報告書-2017年」を公表した(後述 ※1 及び URL は後述[参考ホームページ]①参照)。前年に続く全国2万人を対象に実施したインターネット調査である。その中の「投資信託の商品特徴認知状況」で「NISA(少額投資非課税制度)やDC(確定拠出年金)で投資信託が購入できる」の認知率が23.3%と6番目に多い回答であった(下記左グラフ)。前回2016年調査(23.4%)とほとんど変わらない。しかし、投資信託を保有したことのない層(金融資産保有経験有)では28.3%と比率はやや高く、前回(26.5%)から+1.8%上昇していた。

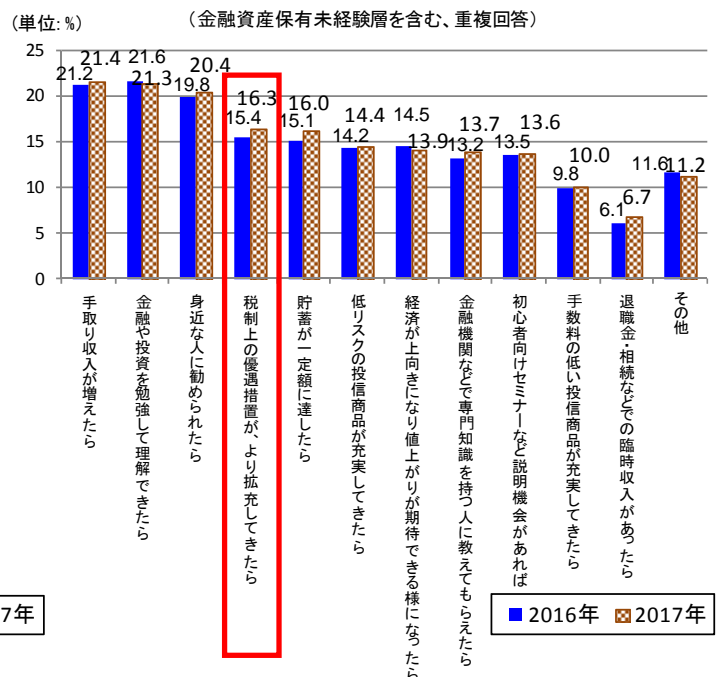
この投資信託保有未経験者に投資信託の購入を検討するきっかけについて尋ねた調査結果もある。ここで前回からの上昇率で最も高かったのが4位の「税制上の優遇措置が、より拡充してきたら」16.3%(←前回15.4%)と5位の「貯蓄が一定額に達したら」16.0%(←前回15.1%)だった(下記右グラフ)。きっかけになりやすそうな7位の「経済が上向きになり値上がり期待できる様になったら」13.9%よりも高いのは注目である(←前回14.5%)。これはNISAが拡充する方が値上がり期待より投信購入検討のきっかけとなると考える人が多いと言う事である。2018年1月から新しい税制上の優遇措置拡充策である「つみたてNISA」が始まった所だが、こうして税制上の優遇措置がより拡充してきた事で、投資未経験者層の投資に繋がる事が期待される。

「投資信託の商品特徴認知状況」
(重複回答)



(出所: 投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書」より
三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

「投資信託保有未経験者の投資信託購入検討のきっかけ」
(金融資産保有未経験層を含む、重複回答)



(出所: 投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書」より
三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

また、NISA や iDeCo といった税制優遇措置のある投資制度の認知度では、NISA そのものは 6 割弱(58.3%)の認知度があるものの、それ以外では、ジュニア NISA が 34.6%、iDeCo(個人型確定拠出年金)が 24.3%、つみため NISA が 21.5%と 2~3 割程度の認知度だった。前回調査と比べ 2017 年はいずれも低下している(前回 2016 年の認知率は NISA59.9%、ジュニア NISA47.0%、iDeCo32.6%)。つみため NISA では、年代別で 70 代が 32.5%と最も高く、次いで 60 代 25.9%となり、30 代は 16.7%、20 代は 15.0%と若い世代ほど認知度が低かった。

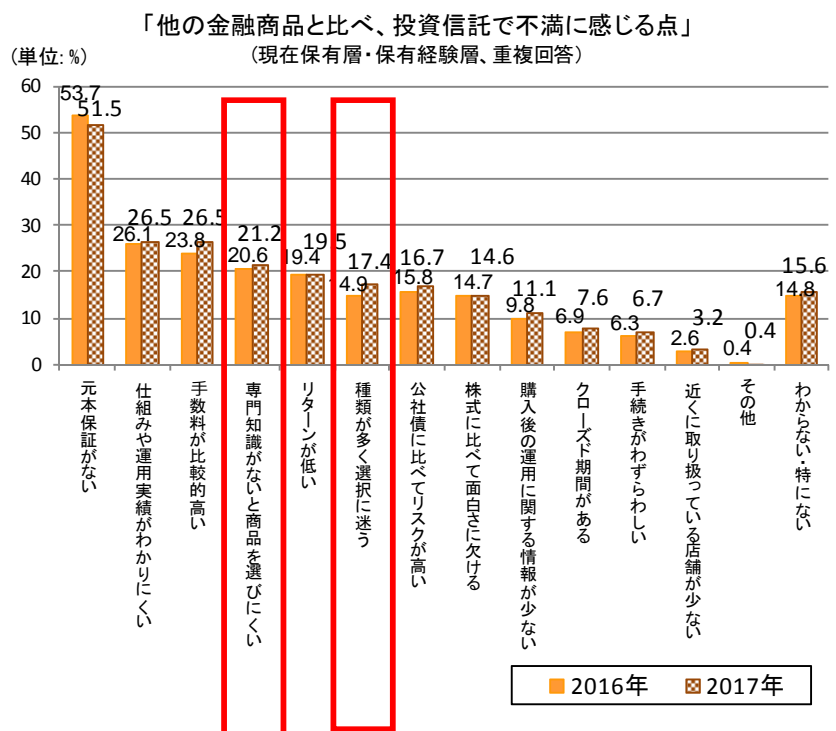
利用度は低位に留まる。NISA の現在利用率は 1 割程度(13.6%)、ジュニア NISA は 0.8%と 1%に満たず、iDeCo は 2.1%である。ただ、前回 2016 年と比較すると、僅かではあるがいずれも利用率が上昇している(2016 年の利用率は NISA が 13.0%、ジュニア NISA は 0.4%、iDeCo は 1.7%だった)。まだまだ NISA の仕組みについての理解は不十分の様で、NISA 及び投信、投資について広く理解してもらおうよう、一層、業界の努力が必要である様だ。

※1: 「投資信託に関するアンケート調査報告書-2017 年」…調査は全国男女 2 万人を対象に、2017 年 9 月 15 日～27 日にかけてインターネットで実施したもの。投資信託の保有状況、積立投資や NISA、iDeCo の認知状況等の実態を把握する調査。調査対象は首都圏、阪神圏、その他地域に居住する 20～79 歳の男性 9917 人と女性 10083 人の 20000 人(*投資信託保有者層や投資信託保有関心者層に限定せず)。投資信託協会の「投資信託に関するアンケート調査」は 2006 年から毎年実施され、2015 年までは「金融関心層向け全国調査/郵送調査」が 3 年ごと(2015 年、2012 年、2009 年、2006 年)、「一般向け東阪調査結果/調査員による訪問留置、訪問回収」が上記の年以外(2014 年、2013 年、2011 年、2010 年、2008 年、2007 年)だった。2016 年から「全国調査/インターネット調査」となり、2016 年は投資信託全般と、NISA、iDeCo 等制度に関する調査と 2 段階で実施、公表された。その他、調査実施会社が 2016 年から株式会社インテージに変わっている(2006 年から 2015 年は日本リサーチセンター)。さらなる詳細は投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書」を参照の事(URL は後述[参考ホームページ]①参照)。

商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人は NISA の最新動向を参考にしてほしい: NISA 既存投資家の人気は日本株やグローバル株、アセットアロケーション

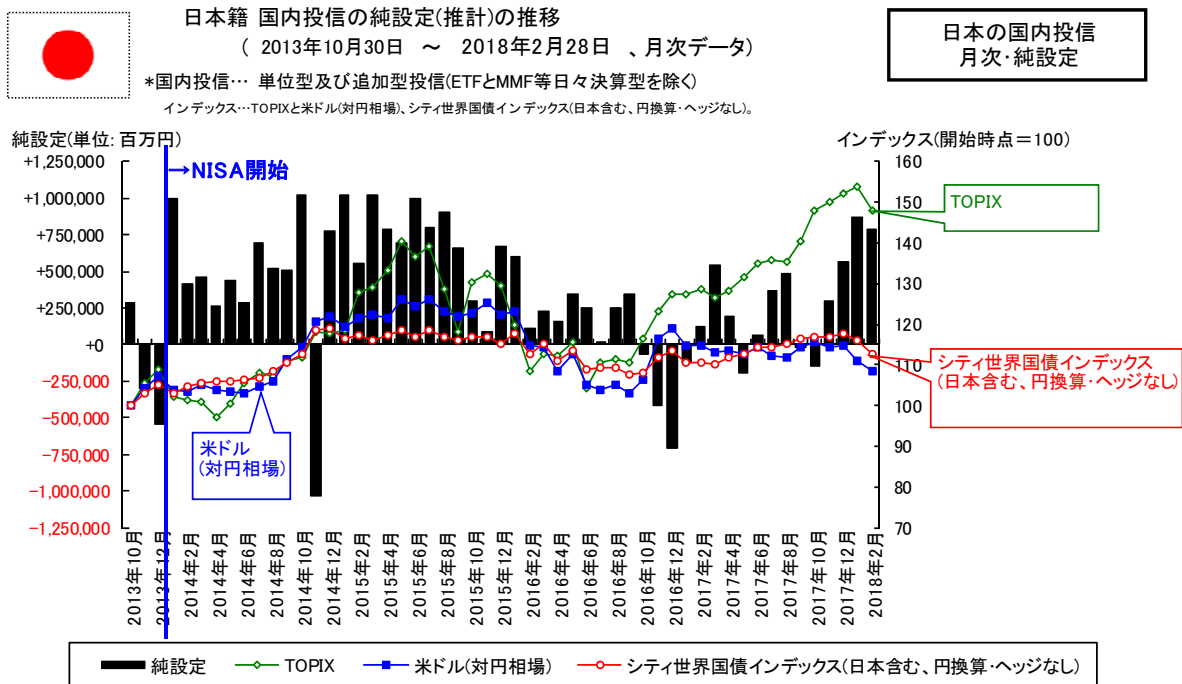
現在、投資信託を保有している層または保有経験層に尋ねた「投資信託で不満に感じる点」には「専門知識がないと商品を選びにくい」が 21.2%で 4 位、「種類が多く選択に迷う」が 17.4%で 6 位(前回 14.9%/7 位)となっていた。

商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人は確かに多いと思う。ぜひここは、NISA の最新動向を参考にしてほしいものである。投資家を既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分け、既存投資家は投信全体の動向で代替、投資の未経験者層(新規投資家)は NISA 向けファンド(後述※2 参照)で代替する。



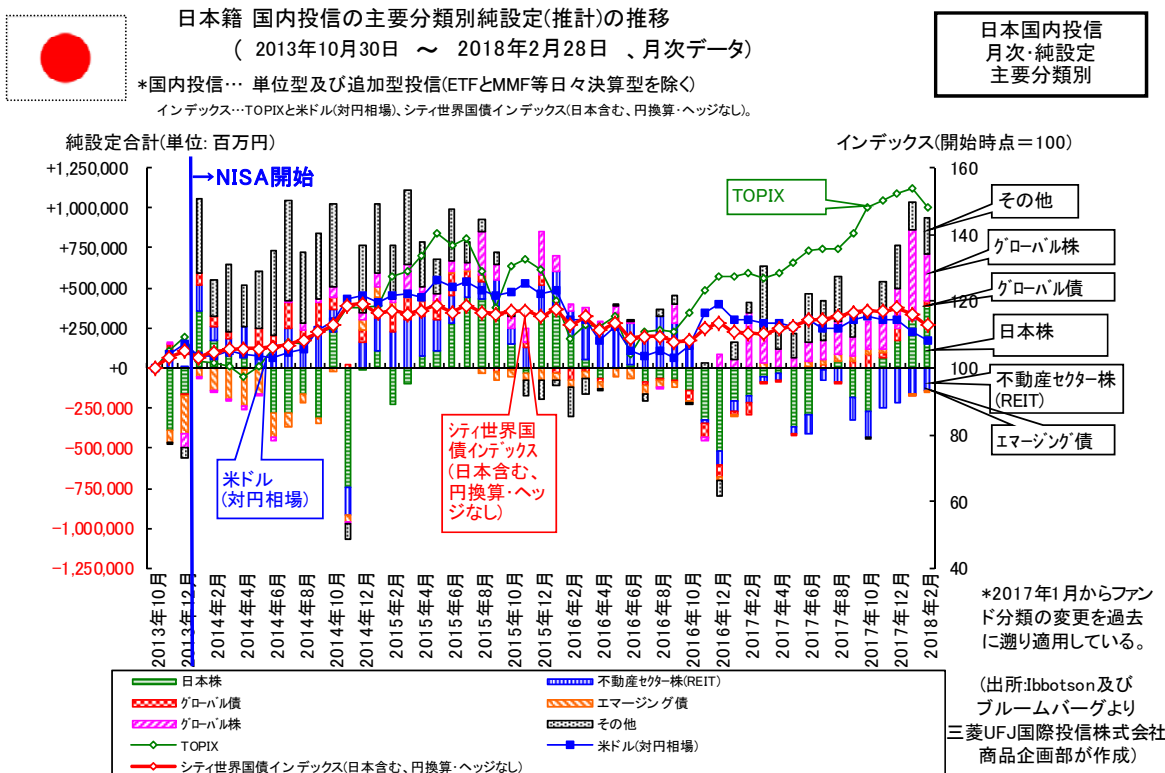
(出所: 投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書」より
三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

まず **NISAの既存投資家を示す投信全体の純設定(推計)は2018年2月に+7889億円と、4カ月連続の資金純流入となり、過去1年間で前月に次ぐ2番目に大きな純流入**。この2018年2月の既存投資家の純設定を、投資対象(主要分類)別で見る。



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

2018年2月に最も純設定の大きかったのは日本株(前月1月は2位)、次いでグローバル株(同1位)、アセットアロケーション柔軟型(同3位)、グローバル債(同24位)、中国株(同9位)だった(下記グラフ参照 *主要分類…モーニングスターによる分類で2017年12月末の純資産の大きい上位5分類。アロケーション型および中国株は「その他」に含まれる)。



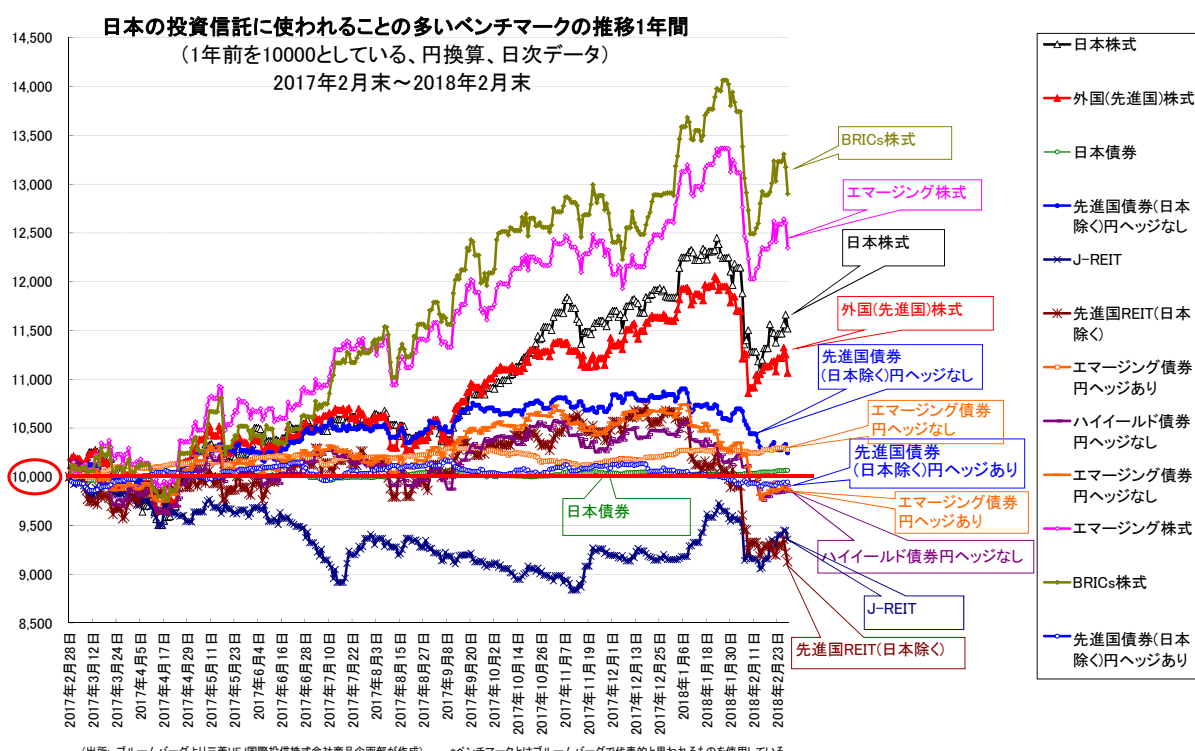
昨年 2017 年(1 月～12 月)で最大の純設定はグローバル株、次いで、アセットアロケーション柔軟型、インド株だったが、グローバル株とアセットアロケーション柔軟型については 2018 年も流れが継続中である。その他、純設定が増加しているのが日本株で、2 月はグローバル株を上回り(2016 年 6 月以来 1 年 8 カ月ぶり)、4 カ月連続の純流入となった。

投信全体で、2 月に純設定が最も大きかった日本株は、昨年 2017 年 11 月から純流入へ転じ、2018 年 2 月は +3971 億円と、2015 年 8 月(+4356 億円)以来、2 年半ぶりの大きさである。

2 番目に純設定の大きかったグローバル株は、2017 年頃から純流入が増加、昨年は年間で約 2 兆円という純流入だったが、2018 年は 2 月までに約 8500 億円と、1 年 3 カ月連続で純流入が続いている。

2017 年の年間でグローバル株に次いで純設定の大きかったアセットアロケーション柔軟型だが、2018 年 2 月は +818 億円と 15 カ月連続の純流入である。

日本の投信の純設定とパフォーマンスの関係はどうだろうか？ 日本の投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見た所、下記グラフの通り、1 年のパフォーマンスの好い順に、BRICs 株式、エマージング株式、日本株式、先進国株式、エマージング債券円ヘッジあり、先進国債券円ヘッジなし、国内債券となっている(*1 年前を 10000、円換算、日次データ)。

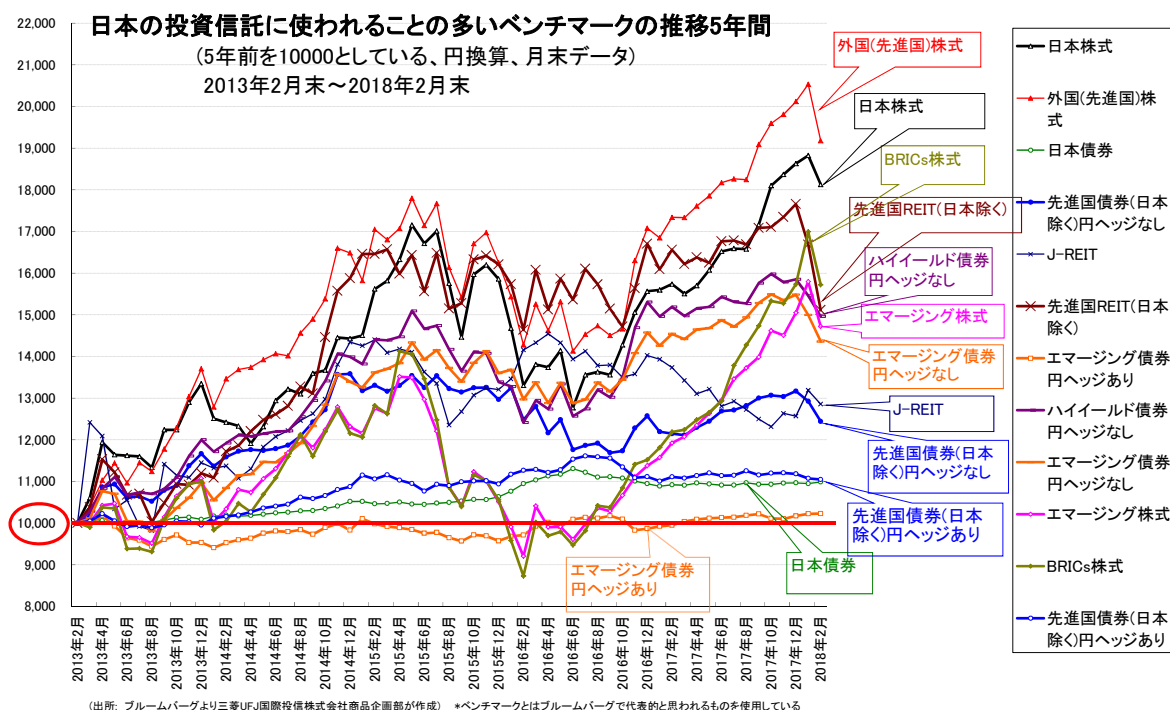


日本株のパフォーマンスは 1 年で見れば、上記グラフのベンチマークで 3 番目に好く(最も良いのが BRICs 株式、次いでエマージング株式)、2017 年 8 月末からの半年や 5 年で 2 番目に好かった。2018 年 2 月の 1 カ月では 6 番目となるが、株式ベンチマークだけでみればエマージング株や先進国株式を上回り、最も好かった。BRICs 株式のパフォーマンスは 2017 年 11 月末からの 3 ヶ月、同 8 月末からの半年、1 年、3 年で見れば好いが、2018 年 2 月の 1 カ月では下から 2 番目だった(先進国 REIT が最低)。

下記グラフは以上の5年のパフォーマンスである。パフォーマンスの好い順に、先進国株式、日本株式、BRICs株式、先進国REIT、ハイイールド債円ヘッジなし、エマージング株式となっている(*5年前を10000、円換算、月末データ)。

先進国株式のパフォーマンスは1年、3年では下記グラフのベンチマーク中、4番目に好く、5年では最も良かったが、2018年2月の1カ月で見ると下から4番目だった。

2月は既存投資家に日本株やグローバル株、中国株が人気だったが、こうした中長期パフォーマンスの好きを背景に、「世界的に株式相場が下落した2月に、逆張りの資金が流入したとみられる」(URLは後述[参考ホームページ]②参照)ことがある様にも見える。



**商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人は NISA の最新動向を参考にしてほしい:
NISA 向けファンドの人気はグローバル株や日本株、アセットアロケーションなど**

次に新規投資家を示す NISA 向けファンド(後述※2 参照)の純設定を見る。NISA 向けファンドの純設定は、最新 2018 年 2 月に+5684 億円と、NISA 投資の始まった 2014 年 1 月以来最大の純流入だった前月 1 月(+8119 億円)や 2017 年 12 月(+6335 億円)に次ぐ、大きな純流入である。

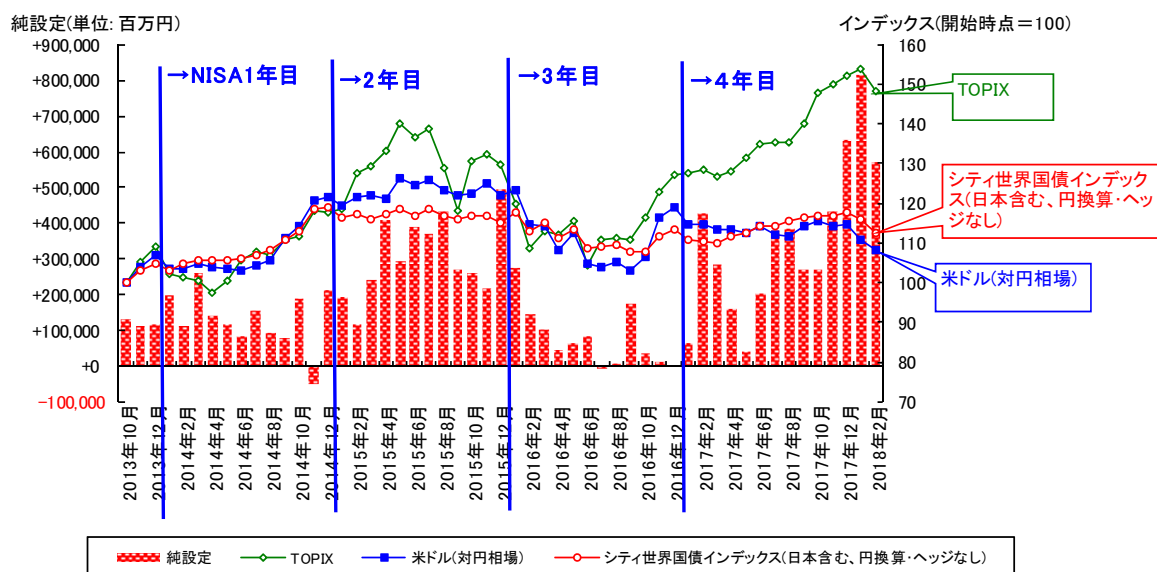


日本の NISA向けファンドの純設定(推計)の推移
(2013年10月31日 ~ 2018年2月28日、月次データ)

*NISA向けファンド… 2018/02/28 現在1893本ある 現存ファンドについて。

インデックス…TOPIXと米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。

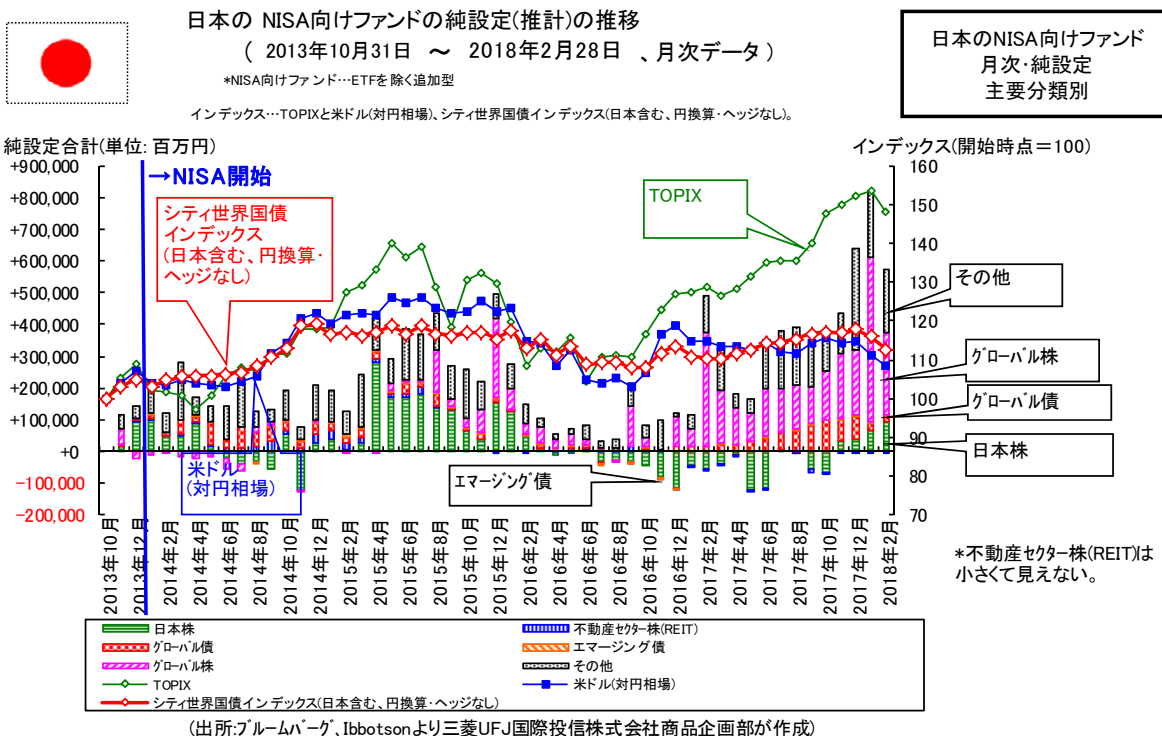
日本のNISA向けファンド
月次・純設定



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

※2: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ]③参照)、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013年4月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2018年2月28日時点で1893本となった。

過去最大級の純流入が続くNISA 向けファンドを投資対象(主要分類)別で見ると、**2018年2月の純設定1位はグローバル株(前年2017年10月から5ヶ月連続1位)、2位は日本株(前月2018年1月3位)、3位はアセットアロケーション柔軟型(前月1月2位)、4位はその他オルタナティブ(前月1月9位)、5位はエマージング株(前月1月4位)だった**(次頁グラフ参照。*主要分類…モーニングスターによる分類で2017年12月末の純資産の大きい上位5分類。アセットアロケーション型とエマージング株とその他オルタナティブは「その他」に含まれる)。



グローバル株やアセットアロケーション柔軟型は前年からの好調な純流入が継続中だ。このほか、足元で日本株への純流入が増えている。 2018年2月に純設定最大だったグローバル株だが、2月は+2588億円と、NISA導入以来、最大の純流入となった前月1月(+5204億円)から半減した。2番目に純設定の大きかった日本株は+941億円と、2016年1月以来2年1カ月ぶりの大きな純流入で、4月連続の純流入も加速傾向である(←2018年1月+667億円←2017年12月+364億円←2017年11月+283億円)。日本株だが、2018年に始まった「つみたてNISA」の対象投信でも、2月は日本株ファンドに人気が集中していた。純設定上位10本の内、9本が日本株ファンドであった(「つみたてNISA」以外で購入された分も含む推計)。3番目に純設定の大きかったアセットアロケーション柔軟型は前月と同水準の純流入で、NISA導入以降4年間、毎月の連続純流入と、安定的な資金純流入が続いている。

以上、既存投資家(投信全体)でも「投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層」(投資信託協会～URLは後述[参考ホームページ]④参照)を中心とする新規投資家(NISA向けファンド)でも、2018年2月は日本株とグローバル株、そしてアセットアロケーション柔軟型が人気だったと言えそうである。今後を示すものではないが、こうした情報が「商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人」が多いと思われるNISA等を検討する投資家の参考になれば幸いである。

以上

[参考ホームページ]

- ①2018年3月7日(水)付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書-2017年」…
「<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2017/>」、
- ②2018年3月8日付日本経済新聞夕刊「つみたてNISA 対象ファンド人気上位は国内株式型」…
「<https://r.nikkei.com/article/DGKKZ027848990Y8A300CIEN1000?type=my#AwAUAgAANTc30Dc1>」、
- ③2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」、

④2013年11月21日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…

「<http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/>」。

三菱UFJ国際投信【投信調査コラム】日本版ISAの道 バックナンバー…「<https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。